



気候変動と紛争 — 記録的な成果の妨げに

エイズ、結核、マラリアとの闘いはコロナ禍前を上回る成果を挙げました。しかし重複する危機が、2030年の目標達成に向けた世界の軌道を逸らせています。

2023年9月18日

ジュネーブ — 本日発表されたグローバルファンドの2023年成果報告書[LINK]はエイズ、結核、マラリア対策プログラムの成果が、新型コロナウイルスのパンデミックによる打撃を経て目覚ましく前進したことを示しています。しかし気候変動や紛争、深まる不平等や人権に関わる脅威の増大といった多くの課題により、2030年までにエイズ、結核、マラリアを終息させるという目標の達成がさらに危うくなっています。

「グローバルファンドのパートナーシップは協働を通じて、過去20年間に5900万人の命を救いました」とグローバルファンドのピーター・サンズ事務局長は語ります。「2022年は複数の記録的成果を挙げることはできましたが、特別な手段を講じない限り、2030年の目標達成はできません」。

2022年、グローバルファンドのパートナーシップは、プログラム実施国、コミュニティ、そしてパートナー関係者のたゆみない努力と柔軟な対応、そして革新的な取組に基づき、抗レトロウイルス療法を過去最大数のHIV陽性者に提供しました。また結核患者の発見・治療人数も過去最大となり、マラリア予防のための蚊帳の配布数も記録的でした。

グローバルファンドの支援対象国における2022年の主な成果は以下の通りです。

HIV/エイズ

- 抗レトロウイルス療法を受けているHIV陽性者：2450万人
- HIV検査実施数(1220万件は優先度の高い人々/キーポピュレーションが対象)：5310万件
- HIV予防サービスを受けた人々：1530万人
- 自らの命と母子感染予防のために医療を受けたHIV陽性の母親：71万人
- HIV予防目的で行われた自発的な男性割礼手術：83万1000件

結核

- 結核治療を受けた人々：670万人

- 薬剤耐性結核の治療を受けた人々：11万8000人
- 抗レトロウイルス薬を服用しているHIV陽性結核患者：33万1000人
- 結核の予防的治療を開始した抗レトロウイルス薬を服用しているHIV陽性者：220万人
- 結核に暴露し予防的治療を受けた人々：150万人

マラリア

- マラリア予防のため配布された家庭用蚊帳：2億2000万張
- マラリアが疑われる症例の検査：3億2100万件
- 季節性マラリアの化学的予防(服薬)を受けた子ども：3710万人
- マラリアの予防的治療を受けた妊婦：1460万人
- マラリア治療を受けた人々：1億6500万人

危機の重複による前進の鈍化

グローバルファンドが支援する多くの国々ではコロナ禍後も、相関し重複する数々の危機により、三大感染症対策の当初の軌道にますます戻りづらくなっています。これらの危機には気候変動、紛争、超過債務、人権の甚だしい侵害、国内あるいは国家間で深刻化する不平等などが含まれます。

気候変動はすでに、感染症に疫学的な影響を及ぼしています。たとえばマラリアは、寄生虫を保有するハマダラカにとってかつては気温の低すぎたアフリカの高地にまで広まってきました。サイクロンや洪水その他、異常気象関連の事象は、マラウイやパキスタンなどの国々でマラリア感染件数の激増を招いています。食糧不安や水不足によりコミュニティ全体が移動を余儀なくされ、結核などの疾病に対する脆弱性が高まっています。グローバルファンドは、異常気象による被災に対応し、マラリア対策への影響の緩和と、エイズ・結核関連サービス継続の確保にあたっています。

紛争は保健インフラを損ない、それだけでなく手一杯の保健サービスに重圧をかけています。罹患した人々は治療を受けることができず、サプライチェーンは分断され、予防的対策も途絶えます。グローバルファンドのパートナーシップは、スーダン、ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーなど複数の国々において、立ちはだかる問題を克服し、最も脆弱な人々が必要とするサービスを確実に受けられるようにしなくてはなりません。

保健システム強化を通じたアウトブレイクの予防と対策

強靱で持続可能な保健システムは三大感染症との闘いの基盤であり、保健に対する現在と将来の脅威を予防し、検知し、対応するための礎です。

「強靱な保健システムの鍵となる要素へ資金を提供することで、命に関わる既存の感染症と闘いながら、保健に対する将来の脅威に備えられるよう、各国を支援しています」とサ

ンズは話します。「たとえば、今後も、コミュニティ・ヘルスワーカーの支援、サプライチェーンや検査ラボのネットワークの強化において重要な役割を担っていきます」。

グローバルファンドは各国の新型コロナウイルス対応を支援し、総額50億米ドル以上を拠出しました。このうち約22億米ドルが保健システムの強化とパンデミックへの備えの拡充に用いられることとなります。

画期的・革新的なツールへの公平なアクセスを推進

エイズ、結核、マラリアとの闘いにおける勢いを取り戻し、維持していくには、革新的なツールに対する公平なアクセスを推進することが重要です。

サンズは、「こうしたすべての問題があろうとも、公衆衛生の脅威であるエイズ、結核、マラリアの終息という目標はまだ達成可能です。何をなすべきは分かっており、機能するツールも持っており、成功例から学ぶこともできる」と語ります。「現状を覆すような革新的取組へのアクセスを推進し、既存のツールと併せて最適に配備して、1ドルで得られる価値を最大限に活用しなくてはなりません。また、若い女性、キーポピュレーション、最貧困層をますます脆弱にしている不平等を解消する必要があります」。

HIV/エイズ対策では、初の効果的な女性主導のエイズ予防策であるダピビリン含有臙リングが新規ツールとして追加され、少女や女性がHIVから自らを守るための力となっています。小児HIV感染症は依然として世界的に対応が不十分な分野ですが、近年の革新的治療法は現状を打破する可能性を秘めています。グローバルファンドのパートナーシップは、子どもにとってより効果的で忍容性も高く安価な小児用ドルテグラビル配合剤の資金を提供しています。

結核対策における主な革新には、移動型X線装置や低コストの分子診断といった新しい診断ツール、薬剤耐性結核患者に対するベダキリン、プレトマニド、リネゾリド、モキシフロキサシンを使用したBPaLM療法などの新規治療法、3HPと呼ばれる新たな短期の予防的治療などがあります。

マラリア対策では、ベクターコントロール(媒介生物制御)、予防、診断、治療において広範囲な革新が行われており、憂慮すべき感染や死亡の増加傾向に対応する一助となるでしょう。たとえば、ピレスロイドとクロルフェナピルという2つの有効成分を組合せた蚊帳が2024年から大規模に配布されますが、この効果はピレスロイドのみを施した標準的蚊帳に比べて効果を劇的に高めます。複数の試験で、生後6か月から10歳までの子どものマラリア感染率が約50%低減することが示されました。

感染に拍車をかけている深刻な不平等の解消を加速化させつつ、こうした革新を統合し配備を最適化していくことが、目標達成への軌道に戻るために不可欠です。最もリスクの高いコミュニティを力づけることによって、貧困や偏見、差別、犯罪化などにより社会的弱者となっている最も脆弱な人々に、命を救う保健サービスを確実に届けることができます。人々と

コミュニティを事業モデルの中心に据えることにより、私たちの使命を果たし誰ひとり取り残さないために不可欠な基盤である信頼の構築につなげます。

###

グローバルファンドとは

グローバルファンドはエイズ、結核、マラリアを終息させ、全ての人々に健康かつ安全で、より公平な未来を築くため、2022年に52億米ドル超を投資しました。世界を結集させて最も効果的な解決策を見出し、それを世界規模で展開するのが私たちであり、それは効果を挙げています。協働によって救われた命は5900万に上ります。使命を果たすまで、私たちは闘い続けます。

グローバルファンドの活動の詳細はwww.theglobalfund.orgをご覧ください。

X(旧ツイッター)をフォロー <http://twitter.com/globalfund>

フェイスブックに参加 <http://www.facebook.com/theglobalfund>